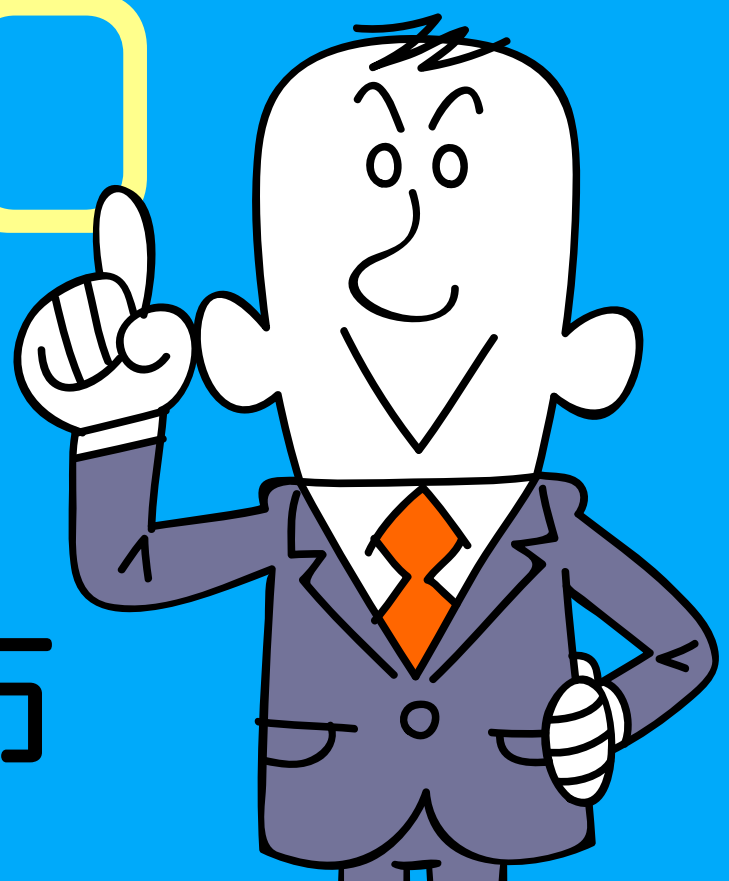


後悔しない
人生を
送るために

30歳から考える

老後
2000
万円問題
との
向き合い方



目次

はじめに

1. 自己紹介
2. なぜこのようなことを考えているのか？
3. 理念
4. ビジョン

老後2000万円問題とは

1. 概要
2. 実際のところ
3. 年金制度は早々に破綻するのか
4. 年金制度の仕組み
5. GPIFの運用成績
6. 年金に対する私の主観
7. 問題を放っておくとどうなるか
8. 今から準備すれば大丈夫！

はじめに

私はインタビューの最後に「今後、ココザスに期待することはありますか？」と質問しました。



「安藤さんやココザスさんが掲げている “ワクワク、生きる、”という理念、そして “経済的自由度を高めることで人生を豊かにする、”というビジョンを追い求めて、私のように人生が変わるキッカケ掴める人を一人でも多く増やしてください。応援しています」

お客さまから上記の返答を頂いた時、ビデオカメラを回していましたが、私は嬉しくて嬉しくて泣きそうになってしまいました。今まで、誰かに必要とされたり、褒められたりした記憶がありません。

ただ、この仕事をはじめてから、出会った方々に

「安藤さんに出会えてよかった。ありがとう」と言われることが増え、日々の幸せを噛み締めています。自分たちのことはどうでも良いから、まずはお客さまの経済的自由度を高めることだけに集中しよう。そう思って日々の活動に向き合うようにしています。

これは、ある時に弊社の “お客さまの声、”のインタビューをさせてもらった時のやり取りです。事前に台本を作って臨んだわけでもなく、ありのままの質問をさせてもらったところ、お客さまの口から出てきた言葉です。

この無料レポート（以下、本書）を手にとっていただき、ありがとうございます。
私は資産形成会社を経営しながら、自らも現役の投資家として様々な資産形成に取り組んでいます。最近以前にも増して問い合わせが増えている感触があります。
恐らく、「**老後2000万円問題**」をテレビのニュースなどで見て、焦って投資や資産形成の勉強を始めた人が多いのだと思います。



※画像引用元：FNN PRIME

紛糾「老後資金2000万円不足」問題…政治家が何を言おうが明らかなのは“不都合な真実”

<https://www.fnn.jp/posts/00046748HDK>

この業界で仕事をしている私たちにとっては追い風なのかもしれません。
ただし、私は大きな危惧をしています。
それは何かというと、金融リテラシー（知識）が低い人に対しても、
「老後2000万円問題」をセールストークにして、悪質な金融商品を売りつける悪徳業者が増えることが予想されるからです。

実際につい先日、私が相談に乗ったクライアントさんが怪しい投資業者（集めた資金をFXで運用します！という内容でした）に営業を受け断ったようなのですが、その時のトークはまさに「老後2000万円問題」を猛烈にプッシュする内容だったようです。

確かに最近、ルノアールあたりでお茶を飲んでいるとこの手のトークがあちこちから聞こえてきますね。恐らく、不動産や保険の営業の方々でしょうか。

私が本書で伝えたいことは“正しいお金との向き合い方、”についてです。

だからこそ、「老後2000万円問題」を軽視するわけでもなく、むしろその逆です。

老後に資金が枯渇することが前提だからこそ、堅実な方法で一人ひとりが資産形成をしていきましょうということを伝えたいと思っています。

本質を見極める目を養っていただければ、変な業者に騙されることもなく、

「世間では騒がれているけれど私は平気」と余裕を持って日々のニュースに耳を傾けられるのではないのでしょうか。

本書は会社員、公務員など、毎月一定額のお給料を得て生活されている方に向けたものです。

私のように自分で会社をやっている人や個人事業主の方は本業を頑張って売上を作ることが一番の資産形成であり、余剰資金は投資に回すよりも本業に投資することが最も高リターンの投資になります。

しかし、この日本に生きているといるということは、自ら将来の資産形成に取り組まなければならないことは共通点だと思いますので、そう考えると幅広い層の方々に学んでいただけるのではと自負しています。

かつての私のように、将来の不安、経済的な窮屈さから逃れる方法を模索している方にとっては参考になる点も多いと思いますので、少し長くはなりますがお付き合いいただければと存じます。

ココザス株式会社
代表取締役 安藤 義人

1. 自己紹介

ご挨拶が遅れました。

私は、個人向けに資産形成コンサルティングを行うココザス株式会社の代表取締役を努めております安藤義人と申します。同時に居住用の不動産を扱う別会社も経営しています。

現在32歳ですが、ずっと順風満帆だったわけではなく、**つい数年前まで多額の借金**を背負い、明日への希望を見出せない本当に**不自由な生き方**をしていました。

本書は私の自叙伝ではありませんから、ここでは多くを語りませんが、ご興味をお持ちいただいた方は是非私のインタビュー記事などご覧いただければと存じます。

ココザス株式会社 創業者／代表取締役

宅地建物取引士

ファイナンシャル・プランニング（FP）技能検定

職歴：建築→投資用不動産→ベンチャー企業経営（資産形成コンサルティング）

趣味：投資、旅行、現代アート、運動（ダーツ、フットサル）

▼ インタビュー、メディア掲載

- ・ 2019年09月12日／B-plus
- ・ 2019年09月22日／KADOKAWA Study Walker
- ・ 2019年09月24日／ファンタビュー
- ・ 2019年10月07日／Manage Story
- ・ 2019年10月08日／LISTEN（リスン）



2. なぜこのようなことを考えているのか？

何故、このようなことを考えているか。それは私自身の過去に答えがあります。

先ほど書いたように、ここ数年で本当の意味での心の豊かさを手にいれることができたが、ほんの数年前まで個人では抱えきれないようなとんでもない金額の借金を背負っていました。

その額なんと、**2000万円！**

普通であれば債務整理か自己破産を選ぶところですが、なんとか自力で返済して今に至ります。

私の場合は、会社の立ち上げに伴ってこれだけの借金を抱えることになったのですが、サラリーマンをやっていた時でも借金の経験はありますし、**23歳のときに株式投資で失敗してほんの数日で400万円ほどのお金を失った**こともあります。



また、20代前半のときは知識もないのに無謀な野心だけはあったので、よく**投資詐欺**などにも引っかかっていました。

一つ例をあげます。

2005年～2006年頃に流行った未公開株への投資話で、株式会社グローパートナーという会社をご存知ですか？

美容業界の大手、ヤマノビューティソリューションズ社（現：ヤマノビューティメイトグループ）が関わっていて `数年以内に上場する、という触れ込みで上場前の株を販売していました。

私は知人の知人からの紹介で取り組んだ覚えがあるのですが、結局お金は返ってこず、**18歳の時に100万円位のお金を失いました。**



他にもネットワークビジネスと呼ばれる類いの勧誘はすべて受けてきましたし、お金に関する最低限の知識、そして何よりも正しいお金との向き合い方、価値観がなかった為に**多くの時間とお金を失い、遠回りをしてきた**のです。

少し話が脱線しましたが、経済的な不安を抱えていた当時の自分がどのような心境だったかという、**常に精神的不安を抱えていて、毎日が憂鬱だった**ことを覚えています。

そんな状況ですから周りの方に優しくすることもできない。
両親にも八つ当たりをする。本当に最低な男でした。

20代半ばの頃は、何度も**自殺**を考えたことがあります。



しかし、どうにか踏みとどまって一生懸命に生きてきた結果、仕事で小さな成功を収めることができ、いつしか経済的自由度が高まり、気づいた時には**精神的な自由／豊かさ**を手にいれることができました。

自分自身がそんなどん底にいたからこそ、今不安を抱えている人に**正しいお金との向き合い方／価値観**をお伝えすることで多くの方の命を救えると考え、私は明確なビジョンの元、日々多くの方々のご相談に乗っています。

3. 理念

インタビューサイトなどでは常に語っていることですが、本当に大変な人生を歩んできたからこそ、世界中の人々が自分の志を明確に立てて **“毎日ワクワクしながら生きていける。そんな世界を作りたい！”**、と思ってココザス株式会社を創業しました。会社名の由来は“志を為す、（ココロザシヲナス）からココ・ザ・スを取って、**ココザス**と名付けました。



4. ビジョン

私は世界中の人々に**精神的な自由**をつかんでほしいという考えから、その為にはまず**経済的な不安を解消することが第1ステップ**だと思い、資産形成の仕事に取り組んでいます。いきなり豊かになろう！儲けよう！ということではなく、まずは不安や不満を取り除くことが先決です。

その次のステップとして、経済的な自由度を得ていただく。

経済的な不安がなくなることで精神的な不安は解消されていきます。

これはどちらかというと言資産運用（元手のお金を増やしていく）と呼ばれるものになり、今私たちが力を入れている資産形成（元手がない状態からお金を作っていく）とは似て非なるものです。

くどいようですが、順番はこうです。

経済的不安の解消



精神的不安の解消



経済的自由度を高める



精神的自由度高まっていく



このサイクルを回していきたい！というのが私がココザスをはじめたときから一貫して考えていることです。

将来的にはお金にまつわる事業だけでなく、精神的自由度を高める為のあらゆるサービスを付け加えていき、理念である “ワクワク、生きる、”を多くの方に届けていきたいと考えています。

さて、前置きが長くなりましたが、本書では**お金の勉強の第一歩**として、まずは私たちが置かれている環境がどうなのか、これから何を考えて生きていけば最悪のケースを避けられるのかについて触れることで、

多くの方の人生に少しでも良いキッカケを与えることができれば光栄です。

それではいってみましょう！

老後2000万円問題とは

一時、ニュースでも毎日報道されていまして、この言葉を聞いたことがない方は少ないでしょう。

私も、弊社のクライアントから「ニュースを見ました！私の将来は大丈夫でしょうか？」という連絡が多発した時期があります。かなりセンセーショナルな報道だったのでそう思うってしまうのも無理はありません。



※画像引用元：FNN PRIME

「年金がいくらか自分の生活では心配したことない」 麻生太郎大臣と老後2000万円問題

https://www.fnn.jp/posts/00046810HDK/201906141947_livenewsit_HDK

しかし、物事は表面ではなく本質を見ると意外に大したことないと思える場合もあります。意外に理解されていない方も多いので、まずは「老後2000万円問題とは？」について書いていきます。

1. 概要

ニュースで騒がれていた老後2000万円問題とは端的にいうと、夫婦の老後資金に「2000万円が必要」とする試算を盛り込んだ金融庁の報告書を政府（麻生太郎金融担当大臣）が受け取り拒否したという話です。

私のように、ファイナンシャルプランナーとして日々お金の勉強をし、それを仕事にしている者からしたら、何を今さら！という感じなのですが、実は今まで政府は老後資金は「年金で賄うことができる」とPRして年金制度を維持していたわけです。

実際は、**年金だけでは2000万円以上のお金が足りなくなることくらい政治家も官僚もみんなわかっていたはず**です。

でも口にする人がいなかった。要はパンドラの箱を開けてしまったんですね。実際に、麻生大臣は「これまでの政府のスタンスと異なる。正式の報告書として受け取らない」と前代未聞の不受理騒動を起こし、事が大きくなってしまったのです。

2. 実際はどうか？



※画像引用元：BUSINESS INSIDER JAPAN

年金デモに若者たちを駆り立てたもの「2000万円貯めて、と丸投げするな」「死ねと言われているようなもの」

<https://www.businessinsider.jp/post-192896>

散々騒がれてデモも起きていましたが、私からすると何を今さら！という話です。

そもそも、**年金制度**というのは今の日本にはどう考えても構造上合わない時代遅れの制度です。

年金について、3階建てになっているという話を聞いたことがあると思います。どういうことかということ、国民年金を1階部分（基礎年金部分）、厚生年金を2階部分、更にその上に任意で加入する制度を設け、現行の日本の年金制度は3階建てで構成されています。

これは1985年の改正法施行時に完成した形なのですが、**もうすでに35年近く経っている**わけです。

また、もっと歴史を遡ると今の年金の原案となる制度は1922年の健康保険法に始まりました。この時は全員が加入するわけではなく、適用となる被保険者は、工場や鉱山、交通業などの事業所で働く従業員本人のみを対象としていたために、加入率は人口の3.0%にとどまっていました。

その後、1938年の国民健康保険法、1944年の法改正で厚生年金保険が誕生、1961年に国民年金制度の施行により「国民皆年金」体制がスタートしたというのが大まかな年金制度の歴史になります。

前述の通り、年金制度というのは今の日本にはどう考えても合わない、**時代遅れな仕組み**であります。

となると、そもそも日本の年金制度は改正が必要ですし、老後2000万円問題というのは今に始まったことでなく以前から分かっていたことなんです。

つまり、当然のように日本も、米国や欧州のように自分自身で将来の為の資産形成をやっておかねばいけないわけで、それが**このタイミング**で周知されたということは**良いことなのでは？**とすら考えています。

これまでの年金「3階建て」構造

| | | | |
|-------|---|--|---|
| 3階 | 国民年金 基金 | 企業年金 | |
| 2階 | | 厚生年金 | |
| 1階 | 国民年金（基礎年金部分） | | |
| 分類・特徴 | 自営業者など （第1号被保険者） 加入期間は20～60歳。 65歳受給開始。 | サラリーマン・ 公務員など （第2号被保険者） 65歳以前の特別支給があるが、働きながらだとカットの可能性大。 | サラリーマンの妻 （第3号被保険者） 保険料を払わずに、65歳から1階部分が受給可能。 |

これからの年金はこう変わる

| | |
|-------------|-------------------------|
| 繰り下げ幅拡大 | ➡ 「75歳繰り下げ」を選ぶと税・保険料負担増 |
| 受給開始年齢引き上げ | ➡ 75歳までもらえなくなる！ |
| 在職老齢年金カット | ➡ 65歳以降も働いたらどんどん没収！ |
| マクロ経済スライド発動 | ➡ 受給額は3000万円カットへ！ |
| 第3号被保険者廃止 | ➡ 専業主婦からも保険料徴収！ |
| 加入期間延長 | ➡ 75歳まで保険料を払わされる！ |

3. 年金制度は早々に破綻するのか

とは言っても、**公的年金がすぐに破綻するか**ということ**そんなことはない**と思います。受給開始時期が遅れたり、受給金額が調整されて少なくなる可能性は大いにありますけどね。

また、現役世代の方々の年金徴収額は増えていくと思いますが、それによって破綻リスクが減ることになります。また、平均寿命が延び続けている現状を考えると、毎月の受給額が減ったとしても長く受け取ることができるので、悪い話ばかりではないわけです。

なぜ、すぐに破綻しないと言えるか。それを考えるには年金制度の仕組みを見ていく必要があります。

4. 年金制度の仕組み

2018年度予算のデータになってしまいますが、年金受給者への給付金総額は55.1兆円（厚生年金と国民年金の合算）となります。そして、財源は大きく3つに分かれています。7割（38.5兆円）は現役世代からの保険料収入になります。

更に2割程度（12.7兆円）は税金を投入しており、**1割が足りていない状態**です。この不足分をカバーしているのが年金積立金です。

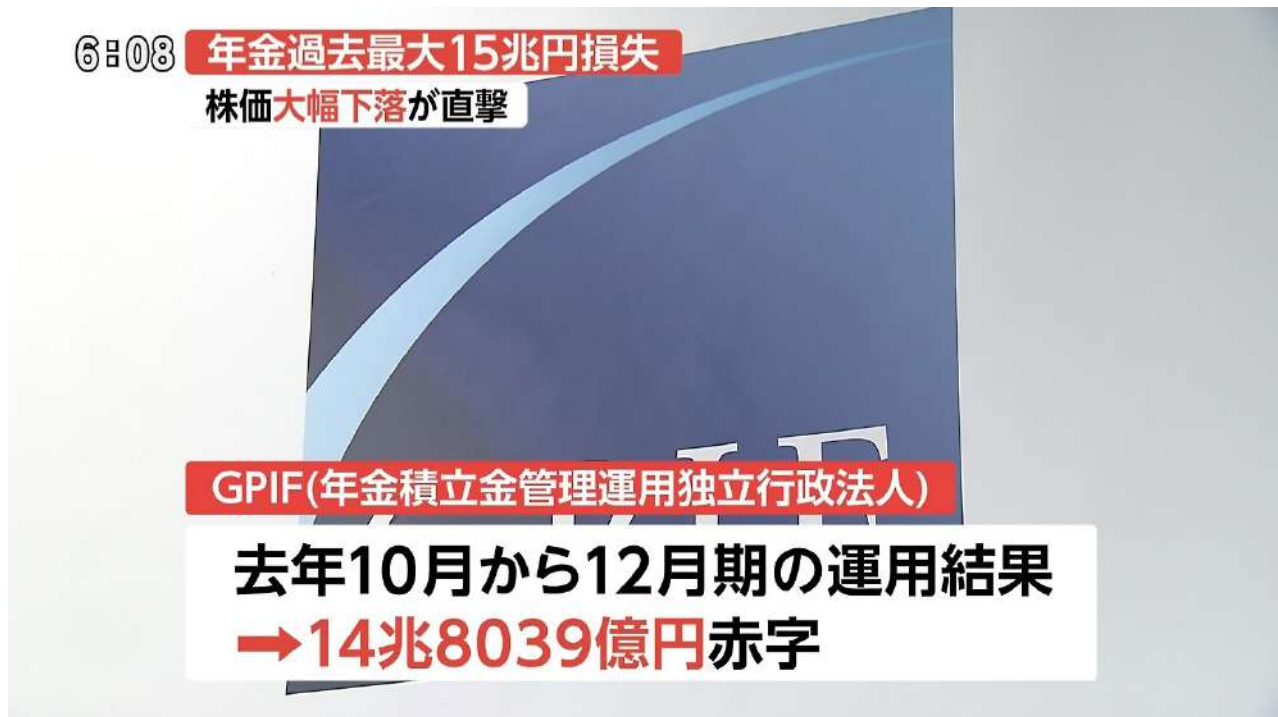
現在、150兆円というとてつもない規模の積立金が貯まっており、そのお金を運用することで堅実に増やしながら年金制度を維持しているという流れになります。では、誰が膨大な資金を運用しているか。

GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）という団体をご存知でしょうか？皆から集めた積立金を運用している団体です。

実は「**世界の年金基金ランキング**」で運用資産が最も多い国は**日本**なんです。

GPIFは2010年から連続で首位を維持しており、世界の中でも日本は年金運用に積極的ということになります。

5. GPIFの運用成績



※画像引用元：野良猫岡山のネットニュース
公的年金運用損、最悪の14.8兆円
<http://noranekookayama0424.blog.fc2.com/blog-entry-912.html>

「年金運用、わずか3ヶ月で14兆円の巨大赤字」というセンセーショナルな新聞の見出しを見たことはありますか？
これはまさに2019年2月頃に発表されたニュースなのですが、2018年第3四半期に世界的な株安に見舞われたときの出来事です。

資産運用に詳しい方からしたら、だから何？というレベルの話ですが、あまり詳しくない方からが見たら「年金制度は破綻する！」と誤ってしまいますよね。

実際の運用成績はGPIFのホームページで開示されています。

→ https://www.gpif.go.jp/gpif/faq/faq_05.html

運用を開始した2001年から年度毎に細かく数字が公表されていますが、
15年の累積収益で65兆円という驚異的な収益を上げているんですね。

もちろん、この数字だけを見ても本質を見誤ります。

2012年からの世界的な好景気相場（日本ではアベノミクス相場と呼ばれている）の間に51兆円を増やしているのです、その前の10年間は14兆円のパフォーマンスということになります。

どちらにせよ、2000年前半のネットバブル崩壊、2008年のリーマンショックなどの金融危機を含めても十分な運用成績を上げているわけなので、今後世界恐慌が来たとしても長い目で見れば確実に右肩上がりに運用総額を増やしていくことと思います。

彼らはプロ中のプロですから、外国株式の比率を増やしたり、株式ではなく債権のポジションを増やしたりとあらゆる対策を講じているのです。

世界全体で見れば経済は成長し続けていきますので、日本のように成長が止まった国の株式は持たずに外国株の比率を増やしていくことが今後のGPIFの基本戦略になるでしょう。



※画像引用元：年金積立金管理運用独立行政法人
<https://www.gpif.go.jp/>

GPIFのホームには「どやっ！」という感じで2001年からの累積パフォーマンスが書かれています。本書執筆時点（2019年度の第1四半期が終わった時点）では平均収益率が年率+3.00%、**累積収益額は+66.1兆円**と書かれていますね。

6. 年金に対する私の主観

つまり、支給額の減額、保険料の増額という私たちにとっては不利な変更を行いながら、GPIFが安定的なパフォーマンスを上げ続ければあと数十年は公的年金は破綻しないと考えられます。

しかし、備えあれば憂いなしということで、私たちは国の仕組みに頼らずに老後資金を作っていく必要があるのは間違いないことでしょう。

ここ数年、国が「貯蓄から投資へ」というスローガンを掲げて、徐々に国民のマインドセットを変えようとしているのは良い流れだと思っています。



※画像引用元：やさしい株のはじめ方 NISA（ニーサ）とは？
<https://kabukiso.com/idiom/nisa.html>

NISAが始まったのが2014年1月からですが、この頃から私たちのような一般国民にも投資を呼びかけるキャンペーンが広まった気がします。

※NISAとは、「NISA口座（非課税口座）」内で、毎年一定金額の範囲内で購入したこれらの金融商品から得られる利益が非課税になる制度です。

また、**iDeCo（イデコ、個人型確定拠出年金）**の登場も大きいでしょう。iDeCoの原型となるDC（確定拠出年金）は2001年から存在していましたが、2016年5月に改正確定拠出年金法が成立したことで、2017年1月からiDeCoの加入対象者が大幅に拡大し、ほとんど全ての現役世代が利用可能な制度に生まれ変わりました。

その後、金融庁が大々的にキャンペーンを行ったことで今やどの銀行でも行内にはiDeCoのポスターがあちこちに貼られているというわけです。

実は「貯蓄から投資へ」というスローガンはここ数年で生まれたものではありません。遡ってみると、2003年7月には小泉前首相と金融庁が揃って言及しています。

このときは証券税制を改革（軽減）して、銀行預金から証券投資へと家計の資金の流れを誘導するキャンペーンでした。

つまり、以前から国民に対して「**自分の身は自分で守りなさいよ**」ということを伝えていたのです。それが最近になっていよいよ本格化してきたというのが私の感じていることです。

7. 問題をほおっておくとどうなるか



私たちは `国に言われたから動く、`のではなく、自らの意思で動いていく必要があります。老後2000万円問題は現実に戻される良いキッカケだったと思います。

日曜日に日比谷公園で2000人が集まって、「死ねと言っているのか！」「年金返せ！」「老後を守れ！」などと騒いでいましたが、そんなことしている時間があるなら**将来の為の対策を考える時間にあてた方が、よほど有意義**です。

本書の読者の方は恐らく日比谷公園に行かなかったと思いますが、、

万が一国に見捨てられたとしても、

私たちには守らなければいけない**家族や大切な人**がいるはずです。

何が起きても大丈夫なようにしっかりと対策をしておくことで

他人のせいにしない人生を過ごせると思うのです。

もし、何も対策をせずにこれまで通りの生き方を続けていたら
どんな問題が起きるでしょうか。

これから、退職金が減る、年金給付額が減る、

手取り給与が減る（社会保険料が上がる、税金が上がる）

平均年収が減る、そもそも終身雇用制度を維持することが困難になる、

など、間違いなく**私たちにとって良くないことが次々と起こっていく**でしょう。

- ・**老後破産者が増加**

- ・**自殺者が増加**

これらは目に見えている日本の将来の姿です。悲しいことですが、お金がなければ生きていくことができません。

実際に自殺の要因も自己破産の要因もすべてお金にまつわることです。

今はそこそこの給与をもらって普通に暮らしていくことができて、先々で急に会社から解雇されるかもしれないですし、日本の財政が急激に悪化して本当に公的年金制度が破綻してしまうかもしれない。

何が起きるか分からない世の中だからこそ、今から備えていくべきなのです。

8. 今から準備すれば大丈夫！

私はご縁をいただいたすべての方に、資産形成を通じて経済的自由度を高めていただき、将来どうなったとしても幸せに生きていくことができるようにお金に対する正しい知識を身につけていただくことをミッションとして生きています。



私は現在32歳ですが、10代後半からあらゆる投資や資産形成商品に取り組んできて分かったことがあります。

それは何か。 **始めるのは一日でも早い方が良い！** ということです。

そしてもう一つ、 **独学ではなく早めにその道のプロと出会うこと** ができれば、今後の人生に与える影響は非常に大きいということ。

私の事例でいうと、投資歴が15年近くになるわけですが、最初の10年程度は比較的风险の高い株式投資ばかりしていました。国内の現物取引がメイン。

結果として、 **10年での成績は圧倒的にマイナス** です。

今、当時の自分に戻れるなら、毎月一定額を積み立てるような堅実な資産形成を2本くらい走らせた上で、自分の信用情報を早めに高めて、東京都心部の不動産を買い集めて、そこから株式投資をはじめて繰り上げ返済の原資にあてるという作戦でいくでしょう。

資産形成における一番の武器は `時間、 なのです。

時間を使える方が圧倒的に有利な世界です。

いつまでに結果を出さなければいけない！という考えで動くと、高確率で資産が目減りします。株式でも不動産でも相場は生き物であり、こちらの都合に合わせてはくれないからです。つまり、**自分の思い通りにはいかない**わけです。

直近の5年程度は作戦を大幅に切り替え、堅実なものばかりにシフトして今着実に資産を増やし続けています。

何故もっと早くシフトできなかったかという、**私は周りにお金に関して相談できる方がいなかった**からです。



ずっと独学でやってきて、大変な遠回りをした結果、様々な出会いがあり今の方法を確立することができました。

本書の読者様には**遠回りをせず、大切な資産を失うことなく、堅実に資産を増やしていただきたい**と思うので、お金の勉強をほとんどしたことがないよという方に対して、学びはじめるキッカケ作りができたらと思い、本書を書くことにしました。

今から準備すれば全く問題ありません。

もし仮に30歳の方が60歳までに3000万円作ろうというのであれば、それは非常に簡単なことです。低リスクなものだけでも十分に達成できるでしょう。

40歳の方で現在の資産が0円ということであれば、少し急がないといけませんね。しかし、今そのことに気付いてすぐに行動すれば遅いことはありません。

貯金だけで老後資金をまかなうことができる方には本書は必要ありません。

コツコツと毎年100万円貯めていきましょう。

ただし、ほとんどの人にとって毎年コンスタントに100万円を貯めるのは難しいと思うのです。それに、**節約に次ぐ節約で貯金を増やしても人生ちっとも楽しくありません。**

せめて年に2回くらいは旅行にもいきながら、大切な人と美味しい食事を食べたり、たくさんの方々との交流も維持しながら気付いたら3000万円貯まっていたね！
くらいでないと、**たった一度きりの人生が台無し**になってしまいますよ。



私のブログやメールマガジンでは、私が自分自身で紆余曲折しながら取り組んできたこと、そして現在はココザス株式会社の社長として120名以上の方の資産形成をサポートしている立場として学んできたことを `無料、`で発信しています。

お金の勉強をするのにお金が掛かってしまっただけでは本末転倒だと思っています。だからこそ、情報提供でお金を頂くことはせず、クライアントさんの資産総額を増やすことでビジネスを回すという、現在のココザスのモデルを作りました。

本書を手にとっていただき、「なるほど！少しずつ勉強していかないと先々で大変そうだな・・・」と感じた方は引き続き、ブログやメールマガジンなどでお金の勉強を続けていただけると幸いです。

過去、思い出したくもないほどに苦しい人生を送ってきた私がなんとか生きていけるようになった感謝の気持ちとして、今後もお金で苦しむ方を一人でも減らせるように日々活動して生きます。

SNSもやっておりますので、本書の感想などいただけたら嬉しく思います。

また、お時間がある時に是非私のインタビュー記事などもご覧いただければと存じます。

最後までお読みいただきまして、ありがとうございました。

どこかでお会いできることを楽しみにしております！

○ 会社のホームページ（会社公式）

<https://cocozas.jp/>

○ ココザス社長のブログ（個人）

<https://ando-yoshito.com/>

○ Twitter（個人）

https://twitter.com/cocozas_ando

○ Facebook（個人）

<https://www.facebook.com/ando.yoshito>

○ Instagram（個人）

<https://www.instagram.com/cocozas.ando/>

○ インタビュー記事

B-plus <http://www.business-plus.net/interview/1909/k5085.html>

ファンタビュー <https://www.fanterview.net/interview/2995/>

LISTEN（リスン） <https://listen-web.com/companies/cocozas/>

Manage Story <https://managestory.jp/nextpage/cocozas>

KADOKAWA Study Walker <https://studywalker.jp/money/article/205696/>



後悔しない人生を送るために30歳から考える `老後2000万円問題、との向き合い方

後悔しない人生を送るために30歳から考える `老後2000万円問題、との向き合い方

| | |
|--------|---|
| 発行者 | ココザザス株式会社 代表取締役 安藤義人 |
| 問い合わせ先 | https://cocozas.jp/form/ |
| 制作発行日 | 2019年12月01日 |